

身の回りの素材を活用した遊び活動を通して科学的思考につなげる
 第1学年・生活科「秋は、遊びのタネがいっぱい ～秋の広場で楽しもう～」

伊万里支部 伊万里市立南波多小学校 富永浩司

① 単元計画

【単元計画】

第1次「わくわく 秋さがし」(4時間)


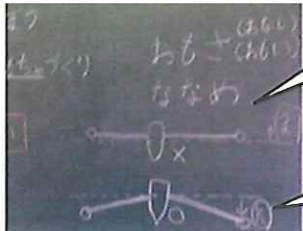


第2次「こんなにあったよ みんなのあき」(3時間 本時1・2/3)

第3次「あつまれ 秋の広場へ」(6時間)

② 本時の目標

秋の自然を使って手作りおもちゃを工夫して作ったり、遊びを考えたりして実際に遊ぶことができる。

③ 授業の実際 (本時 5・6/13)

児童の学習活動や主な反応	具体的な指導 (○) 評価 (◆)
1 前時の学習を振り返る。 ・ 集めた木の実でいろいろなおもちゃを作ったよ。 ・ やじろべえが上手くうごかなかった…。 2 本時のめあてを確かめる。	○ 前時の活動で、やじろべえを作ったが、うまく立たなかったため、児童の保護者にボランティアティーチャー (VT) として指導をお願いする。
どんぐりをつかって、いろいろなおもちゃをつくってみよう	
3 おもちゃ博士に作り方を教えてもらう。 ・ うまくできなかったやじろべえの作り方を習おう。  	○ VT の紹介をして、挨拶させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> みんながつくったのは、うでが真横に伸びてるんだね。これじゃ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 真ん中のどんぐりよりも、重りのどんぐりは下にくるようにうでをつけるといいよ。 </div>
4 習ったことに気をつけて作って遊ぼう。   ・ うでにつけたおもりを、下に下げたら立った！ ・ やじろべえの上に、やじろべえを乗せても立ったよ！	○ VT の話を板書し、中心と重りの位置に気をつけることを押さえさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;"> ◆ VT からやじろべえの仕組みを聞き、楽しんでやじろべえを作ることができる。 </div> ○ できたやじろべえを使って、自由に遊ばせ、重心とバランスの関係を遊びを通して実感させる。

- 5 どんぐりでできる他のおもちゃを習おう。
- ・ どんぐりに穴を開けてつまようじを刺せばこまになるね。でも、ぐにゃぐにゃしてすぐ倒れるなあ。



- ・ まがっていないどんぐりをさがすんだね。
- ・ どんぐりって言っても、いろんな名前があるんだね。
- ・ どんぐりごまには、クヌギの実がいいね。
- ・ マテバシイの実に穴を開けて、中を空っぽにしたら、笛になるんだね。
- ・ おもちゃ博士は、なんでも作れるね。

- 6 学習のふりかえりをする。
- 7 次時の学習について考える。

- 他のおもちゃの作り方も、VT から教えてもらいたく。
- どんぐりごまと、どんぐり笛の作り方を教えていただく。

◆ どんぐりごまとどんぐり笛の作り方をVTに聞いて、工夫しながら楽しく作ることができる。

- できるだけ左右対称な、均整のとれたどんぐりを選ばせ、担任とVTでどんぐりの真ん中に穴を開けてやる。
- よく回るどんぐりごまは、「クヌギ」という名前であることを教え、一方、どんぐり笛に使用するのは、縦長で殻が固い「マテバシイ」という名前であることを伝える。

◆ どんぐりには、いろいろな名前があることを知ることができる。

- VT へのお礼の言葉を子供達から言わせる。
- 次は、自分たちで作ったおもちゃや作品を集めた、秋の広場の計画を立てることを確認して終わる。

④ 考察（成果○と課題●）

- 秋になると、木の実や木の葉、枯れ枝などが高い木の幹から落ちて、児童の手の届く所に落ちてくる。季節の移り変わりや植物の観察にもつながる体験学習に適した季節だった。
- 3年生から学ぶ理科につながるいろいろな体験を、遊びという児童が主体的に関わる形での学びを行うため、本学習で体験したことは、理科学習導入時に生きる体験を行うことができた。
- 本学習においては、やじろべえというおもちゃが、重心よりも腕の位置を下に持つてくるという体験を、VTの指導という形で学び、実際に自分の手で習ったように作り、できたもので楽しく遊ぶことができた。
- どんぐりごまについては、物体の中心を意識させる体験ができ、本学習は、1月に行った「南小まつり」という異学年交流の行事の時に、1年生での出し物を「こま屋さん」にして、いろいろなこまを作って、全校児童に広めたいという意見が出された。そこで、「どんぐりごま」「ぶんぶんごま」「折り紙ごま」を作らせ、また、「ベンハムのこま」や「マクスウェルのこま」の面白さを体感することができた。



- 理科とは違って生活科であるので、考察に相当するような学習は行わなかったが、多くの体験が、これからの科学的思考につながるような指導をどこかに入れておくべきだったと考える。